



第3号

2009年1月発行

～21世紀市民プロジェクト“ミュゼ” 第3回ミーティング開催～

2009・1・27（火）新年最初の会合が伊達市噴火湾文化研究所ゲストハウスにおいて開催されました。当日は24名の参加がありました。世話人を中心に5つのグループに分かれ、博物館に関するこれからの活動内容について話し合うことで、メンバー間のコミュニケーションをはかる事を目的にフリートークを行い、その内容を各班の代表が発表しました。ミーティングの内容については下記に掲載致しましたが、その他にもたくさんの素晴らしい意見が発表されました。

～第3回ミーティングの概要について～

1、報告事項

- ※12月17日（水）代表伊達さんと青野さんがミュゼの趣旨・活動内容などを菊谷市長に報告をした。市長からは伊達市が面白いことをしているとPRをしてほしい、空き店舗を利用した移動博物館などの提案もありました。
- ※レクチャー中止について～ワークショップの指導は会員が直接受けたほうが良いのではないかと、もう少し話し合いをしてから決めたいなどの理由から、決定内容は白紙に戻す旨、青野氏より報告があり、会で承諾されました。

2、フリートーク発表内容



- ・展示物を豊富に、小学生・中学生などに訴える体験型・子供に魅力がある博物館。
- ・強いインパクト、手でさわられる展示。子供に歴史を知って欲しい。
- ・伊達は他に見劣りしない豊富な文化財がある。これらを核にした展示ができると良い。



- ・体験が出来るような博物館が必要（中学生などにアンケートをする）教育とリンクする。
- ・様々な博物館を見る機会が必要。他の地域の活動をしているグループとの交流。
- ・伊達の歴史について学ぶ機会が必要。環境・伊達の自然を楽しめる。



- ・世界遺産・ジオパーク・目指すべき博物館の方向性。
- ・街中全体を見てもらう博物館。住民意識を高める活動。
- ・核となる、地域活動団体 街角博物館。現地でしか見られない、感じられないものがある。



- ・博物館の意思統一があるほうが話し合う方向性が見えてくる。
- ・開拓記念館をモデルに、どんな博物館にしたら良いのかを討議。
- ・市内の知られていない文化を掘り起こしたい。また、博物館の見て歩きもしたい。



- ・道内の博物館の中には入館者が減少の所と増加の所がある。減少の原因追及・研究が必要。
- ・出張博物館など、裾野を広げてマーケットリサーチに取り組み、市民のアイデアをもらう。
- ・地域で活躍している人の参加を呼びかける。開拓記念館・迎賓館などを利用しながら、ミュゼで企画を行い市民の理解を得る。インターネットの時代・個人に合わせた企画・宣伝が必要。

3、次回開催日

2月10日（火） 18:30～ 伊達市噴火湾文化研究所ゲストハウス

（今回の意見をもとに世話人会で今後の活動内容の原案を作ります。それをもとに2回目のフリートークを行います。）



～「モノ」「コト」「遊び」を楽しむ～

＜オコンシベの会 小倉定一＞



北黄金貝塚公園の周りの樹木は市民の皆さんが植樹をし、今年で10年目になります。シラカバの樹も10メートルにたらんとし「縄文の森」に見えてきました。この森に囲まれた「縄文の丘」でガイドをしています。特に6月～7月は、札幌圏内の小学校の修学旅行コースに入っていて、どっと大型バスが来ますので、ボランティアガイドも文化研究所の職員も総出で対応します。私は、設立当時からガイドをしています。今でも、勉強しながらの日々です。当初は、手引きを持つてのガイドでした。「モノ」の名(すり石、石皿、円筒土器、石錘・・・)を覚えるのが精一杯でした。次第に「コト」(モノの働き、機能など)も少しずつですが解説の中に入れられるようになってきました。最近縄文時代の人々の「技」(土器製作、石器製作・・・)を「遊び」として楽しんでいるところです。子どもたちも「遊び」(モノづくり体験)が大好きです。



～“木地師” (きじし)～

＜伊達市民生活文化伝承者 府川 晃＞



伊達市民生活文化伝承者に認定されました。“木地師”について、紙面をお借りして説明させていただきます。“木地師” (きじし) 轆轤 (ろくろ) を用いて木材から盆や椀などの日用器物を作る人。文徳天皇 (827-858) の第一皇孫、惟喬親王 (注1) を職組とし良材を求めて諸国の山から山へと漂泊を続け、伐採や通行の自由を主張した。しかし、次第に山間に土着し村生活を営むようになり、明治維新後、伝統的な木地師社会は消滅していった。

(注1)・・・惟喬親王 (844-897) 文徳天皇の第一皇子。聡明であったが藤原氏を母とする第四皇子 惟仁親王 (後の清和天皇) が皇太子に立った為、失意の生涯を送る。同じく紀氏を妻とする在原業平らを従えて風流に遊び、その歌は「伊勢物語」におさめられている。伝承によれば、この親王が29歳で出家し近江の国、小椋に隠棲し木地師の職組となったといわれている。明治以降、今日に至るまでは・・・つづく?とさせていただきます。

～博物館なるほど物語～

～伊達家博物館のいろいろ～

＜世話人

太細重秋＞

戦国史が好きなので、関連の博物館資料館巡りをするのが楽しみです。

「仙台市立博物館」は城跡に建ち、郷土の歴史や伊達家歴代の文化遺産が展示されている。仙台伊達家は六十二万石であるが実録は百万石と言われ、天下を狙った政宗の豪華な品々や文化人としての自筆の文書、美術品の多さに驚く。私の先祖は元は政宗の所管家士で戦国期の文書が所蔵されており、特別な計らいで見せていただいたことがある。

岩出山伊達家の有備館、片倉家の武家屋敷跡や城跡、亘理伊達家の悠里館、石川家の角田資料館、涌谷伊達家の史料館等など要害地の博物館・城跡巡りは見所が多い。また、伊達家初代朝宗から代々が築いた城跡に建つ資料館巡りも楽しい。「宇和島伊達博物館」は政宗の長子秀宗入城後の品々を展示、僅か十萬石ながら明治維新で薩長土肥に準じる役割を果たした事から重要な文化財は離散せず、お城も現在天守である。

宇和島藩の分家吉田伊達家の資料館「田安の郷」も楽しいです。



(伊達成実 誕生の地 大森城跡)

※ ニュースレター担当からのお知らせ

コラムにこころよくご協力頂いた小倉さん、府川さん、太細さんありがとうございました。今回のフリートークでは、たくさんの情報が知りたいという声がありました。引き続き、皆様の体験・アイデア・情報などのご協力をお願い致します。

【21世紀市民プロジェクト “ミュゼ” 事務局】

〒052-0031 伊達市館山町 21 番地 5 TEL 0142-21-5050 FAX 0142-22-5445
伊達市噴火湾文化研究所 ニュースレター 担当： 小西・上野
e-mail bunka@city.date.hokkaido.jp <http://www.funkawan.net>